

研究推進だより

ふるさと



《研究主題》

ふるさとについて語り合い、
未来に向かって主体的に行動できる児童の育成

令和4年6月17日 No.1
南丹市立胡麻郷小学校

はじめに

令和2年度から実施されている現行の学習指導要領の基本的な方針の中に「社会に開かれた教育課程の実現」があります。学校と保護者と地域が協働し、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」ことを目指した学習を指します。

本校は現6年生が入学する前から地域の田んぼをお借りしての「田んぼの学習」や伝統的な「丹波音頭の学習」など、地域をキャンパスにし、地域のひと・もの・ことを教育的リソースとして地域学習を積極的に行ってきました。そして、一昨年度からはふるさとについて地域の方々と学ぶ地域道徳の実践をスタートさせ、昨年度は全ての学年で地域道徳を行うことができました。

本年度はタイトルにもあるように研究主題を「ふるさとについて語り合い、未来に向かって主体的に行動できる児童の育成」と定め、親子で考え、心を育む親子道徳も組み込む計画をするなど、「考え・議論する道徳」の実現を目指しています。また、学校での道徳教育の充実だけでなく、そこに地域や保護者を巻き込むことでより深みや広がりがある道徳教育の実現、ひいては地域全体の道徳性を養っていきたいと考えています。

さらに、本年度は文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を殿田中学校ブロック【ひよしこども園、胡麻保育所、殿田小学校、胡麻郷小学校、殿田中学校】として受け、ブロック全体でも足並みを揃えながら研究を進めていくことで、地域道徳をはじめとする全ての道徳教育の充実を目指しているところです。

この研究推進だより「ふるさと」では、重点研究である地域道徳を中心とした学習や学校生活について紹介していきます。このたよりがお子様と学校での学習について、また、ふるさとのよさ・未来について話していただく“きっかけ”になれば幸いです。

研究主任より

いきいきにこにこつながるんジャー誕生

本校の本部委員会では「全校が、家庭が、地域が生き生きにこにこつながり合えるように」という願いから『いきいきにこにこつながるんジャー』が生まれました。全校集会では、「ごまっ子のつながりパワーをもっともっと集めてええ学校に、ええ地域にしていこう。」と呼びかけ、友だちや地域とつながる取組を提案しました。全校集会後には、「ぼくも、つながるんジャーのように色々な人とつながりたい。」「地域のお世話になっている方に感謝の思いを届けたい。」と、何人もの児童が本部委員のもとに集まるなど、積極的に行動していこうとする児童の姿が見られました。これからも「つながるんジャー」を中心に、ええ学校、ええ地域をつくるため、活動を計画していきますのでお力を貸していただければ幸いです。



あつまれボランティア (あつボラ)でええ学校！

本部委員会の取組の1つである「あつまれボランティア（通称あつボラ）」では、ごまっ子と地域との「つながり」を大切に活動をしています。第1回あつボラでは、グラウンドの清掃活動を行いました。第2回では、あいさつでごまっ子とつながるために、あいさつボランティアを行い。爽やかな朝の挨拶で全校がつながりました。第3回では、地域の方へ歌声を届けるために合唱練習（嵐 ふるさと）を行いました。本部委員会の呼びかけに低学年から高学年のたくさんの児童が積極的に参加し、奉仕の心や、郷土愛を育てています。



地域の方から学ぼう！（草木染め）

2年生では5月の学年PTAで草木染めを行いました。今年度は地域道徳として、東胡麻で草木染めをされている方から草木染めを始められたきっかけや胡麻で草木染めをすることの良さ、自然環境のありがたさなどについてお話を伺いました。その後には、実際にバッグやタオル、Tシャツなどを草木で染める体験をしました。地域の方々とともに地域の良さを、親子で学ぶことができた貴重な時間でした。



2年生児童の感想文より

しぜんの色がきれいだし、もっときれいなしぜんをつくり、またやりたくなりました。

Tシャツをそめたのがたのしかったです。バッグは黄色とオレンジ色です。とてもたのしかったです。

参加保護者の感想文より

草がたくさんある事で「大変だなあ」とは思っていました。草があることでこんな作品ができるなんて、自然や草木への見方が変わりました。

すぐ近くに自然があり、その自然を活用できる術をもってられるのがとても素敵だなと思いました。ここで子育てができて良かったです。